COLUMN
標準化よもやま話 15

国際標準化活動の光と影

小暮拓世　東京大学 国際・産学共同研究センター

はじめに

昨今，国際標準化活動についての啓蒙や，提言をマスメディアでしばしば目にするようになってきました．長年，映像音響分野でこの活動にかかわってきた筆者の目には，これらの言葉を目にするにつけ，光と影の部分が見え複雑に交錯します．2007年前半の今日，国内のあちらこちらで，耳目が注がれるようになったことは，喜ばしい反面，ここまでに至る影の部分があまり語られずに過ぎてしまうとすれば，これらの活動が次世代の発展に上手く受け継がれてゆくための貴重な教材を見過ごしているかに見えます．今，なぜ，国際標準化活動が話題になるのでしょうか．この命題について，少し過去を振り返ってみて，何らかの示唆を見つけたいと思います．

光の部分

国際標準化活動には，光と影の両面があると冒頭に申し上げましたが，光の部分，すなわち，成功例を挙げるとしますと，まずは[MPEG-2 ISO/IEC13818]シリーズの標準化活動が目に浮かびます．一般に，どんな標準でも，使われてこそ，その存在意味があると思います．待ってました！とばかりに，標準の実用化の成功例といえばMPEG-2であり，1993年時点では，衛星放送やDVDでの採用がほぼ見えていて，産業界がその出現を待っていた標準でしたので，比較的短期日に実用化された貴重な成功事例でした．MPEG-2 符号化で威力を発揮したプロファイル化は，その後の国際標準化活動にしっかり引き継がれてさまざまなケースで適用されていきます．このプロファイルは標準としてのコンフォーマンス（規格適合性）の単位として大いにその存在意義があったといえます．

影の部分

日本で，MPEGerと紹介されますと，あまり良い反応は返ってこないと，幾人かの先輩MPEGerからお聞きしています．また，日本には「会議屋」と揶揄し，会議の参加者を侮蔑する傾向が依然として残っているのかもしれないともお聞きしました．組織の中では，外国経験のない人はもちろん，それが豊富にある人からでさえ，「しょっちゅう外国にいっているね，本当に1日中会議をしている？」「外国出張のついでに色んな名所を見物できていいですね」等の風評が蔓延していた模様で，おしなべて評価が低いようです．それが原因とまでは言えませんが，最近ではMPEGerが，漸減しているのは事実です．国際標準化活動には，仕事をないがしろにしている国際人，といった偏った仕事人のイメージがあるのではないでしょうか．今日でも多かれ少なかれ，その傾向はなんとなく残っていて，「標準化会議は出世の妨げ」と見られるように思えます．

成果をみせにくいMPEGer

筆者の経験でも，同僚からは，「またですか，仕事は大丈夫ですか，ご家庭は？」といらぬ心配をされ，上司からは，「出張費用がかさむわりに成果がない」とチクリと言われながらも，あれやこれやで国際標準化活動に携わって早くも20有余年が過ぎてしまいました．改めて，過去一緒に会議でご活躍されたMPEGerやその他の会議でご一緒した方々のその後を振り返りますと，もちろん，組織のトップレベルに昇りつめた方々もおられますが，おしなべて言えば，あるレベルで停滞してしまった人も多いように見えます．日本の企業社会に定着した評価の成果主義と「国際標準化活動」業務は，上手くマッチングしないのです．半年や1年で，まとまった成果を挙げるには，長丁場になりがちな国際標準化活動は，分が悪いと言えそうです．日本では，上司の目にとまり，上司を上手くサポートし，勝ち馬に乗ると，その後の途が開けるようです．最近の若手は，その辺をよく観ていますので，どうすれば，評価が上がるのかを知っています．国際標準化活動業務が若手にイマイチ人気がない原因はその辺にありそうです．MPEGer等の「会議人」は，上司や周囲の同僚たちから，ただ会議に出ているだけの簡単な仕事に見えてしまいます．国際標準化会議の出席者の中には，会議に出ることそのものが目的のようにお見受けする人も皆無ではないとは思いますが，大多数の人は，寝食もそこそこに会議成果をまとめ上げようと懸命に努力している真面目な人たちです．何とかして実情をご理解いただくすべを探したいものです．

おわりに

国際標準化活動では，数と同様，個人のプレゼンス力が物を言います．このようなエキスパートを育成するには若い人材の長期的な体験的育成が肝要です．それには社会全体で，能力ある個人を育てる雰囲気を盛り上げ，人材の育成に関する国の目標を明確にし，大学や企業での長期人材育成計画プログラムを物心両面から支える施策を実行に移すのが，時間がかかりますが，「技術立国再建」の鍵となりそうです．近隣諸国の後塵を拝しないためにも，この辺でそろそろ我々経験者が行動を起こす頃かと思います．

（平成19年4月6日受付）

小暮拓世（正会員）｜koguret@attglobal.net
1980年代から MPEG 国際標準化活動にかかわり，2007年の今日まで，継続中．その間，MPEGLAの創設やDAVIC，DMP等にも参加．国際標準の実態を，身を持って体験し，提言を続けてきた．